

## 2年生

(A 文系+BCD)

## 第3回市役所職員講話

5月27日（水）6校時「課題研究」の授業において、北秋田市役所職員による3回目の講話を実施しました。この日は、総合政策課から3人の方が講師として来校。「移住定住・結婚支援」の現状と課題をお話ししてくださいました。

### 【ポートフォリオから】

- ・移住対策や助成金などたくさんの取り組みをしていることが分かったので、これをもっと広め、どうしたら人口増加につながるのか考えるようにしたい。(D組女子)
- ・環境のよい北秋田市がこれからも残り続けるよう、自然や今あるものを大切にしていきたい。(D組女子)
- ・北秋田市の教育環境や生活環境を求めて移住してくる人がいて少し驚いた。移住のメリットを多く見つけてみたい。(C組女子)
- ・住みよさランキングが上位でも、人口が少ないというのは永遠の課題になると思う。将来を想像しながら課題解決の策を考えていきたい。(C組女子)
- ・移住者の話を聞いてみたいと思った。(B組女子)
- ・少子高齢化が悪ととらえられているが、高齢者へやさしい町という取り組み、売り出しも必要ではないかと思う。(A組男子)
- ・移住・定住を呼びかけるだけでなく、北秋田市に住んでいる方に不便に思っていることを聞き、そこを改善することも大切だと思う。(C組女子)



### 【質疑応答から】

- Q1：新型コロナウイルスが流行しているこの状況の時に、新たに取り組んでいることはありますか？(D組女子)
- A1：LINE アカウントを作成したり、Zoom などのアプリを使ってオンラインで相談を受け付けたりしています。
- Q2：北秋田市などの地方で暮らすメリットはありますか？(A組男子)
- A2：テレワークができるなら、地方がいいのではないかと。東京のほうが稼げると思うかもしれないけれど、物価が高く、支出と収入のバランスも大事です。また、都会に疲れて帰ってくる人もいるように、安心してゆったりとした日常を送れることです。
- Q3：北秋田市へ移住してきた人たちの主な理由は何ですか？(D組男子)
- A3：よく言われるのは自然と教育です。満員電車での通勤が大変、などです。

### 【3年生「移住・定住対策」研究班から】

「移住・定住対策」を研究テーマに選択した1班班長から、2年生へのメッセージです。

- Q. 選択したきっかけは？ A. 北秋田市を未来に残すためには人口減少を止めなければならないと感じたからです。
- Q. 昨年度の研究内容は？ A. 教育委員会に教育留学について聞き取り調査し、子どもの教育のためには親が仕事に就くことが重要だと分かり、Aターン制度について調べました。

★2年生に一言！ PRするためには地元の魅力と課題を自分たちが誰よりも理解していないといけないと思います。そのために、まずは生活している「北秋田のここをこう変えるべき」というような身近な問題から考えてみてください。

# 2年生 (A 文系+BCD) 第4回市役所職員講話

6月10日(水)6校時「課題研究」の授業において、北秋田市役所職員による最後の講話を実施しました。この日は、総務課危機管理係から2人の方が講師として来校。「防災・減災対策」の現状と課題をお話ししてくださいました。

## 【ポートフォリオから】

・北秋田市では防災ラジオを無料で提供していて、市全体の防災への意識が高まっていると思った。一人だけの行動では変えることは難しいけれど、全体で災害への強い危機感を持たなければいけないと思う。

(D組男子)

・災害時の被害を最小限に抑えるためのキーワードとして、「自助・共助・公助」があり、災害に強い社会は、これらの3つの「助」が互いに補い合い、支え合って初めて実現するということが分かった。また、自主防災力の強化と結成団体の結成率向上が課題だということも分かった。(C組男子)

・防災のためには一人ひとりの意識も大切だが、助け合うということも大切だと改めて理解した。

(B組男子)

・安全のために防災ラジオの普及を急ぐべきだと思った。(B組男子)

・自分たちが情報の発信源になれるようにしたい(B組女子)

・北秋田市では自分が思っている以上に防災・減災について対策を行っていると思った。

(C組女子)

## 【質疑応答から】

Q1：堤防の決壊や橋の落下などで自分が住む地域までの道がなくなってしまった場合、北秋田市は最初にどのような行動をとりますか。(A組男子)

A1：避難所を開設して住民を避難させます。

Q2：防災ラジオ普及率80%だと逃げ遅れたり判断を誤ってしまったりして亡くなる人がでてくると思われるので、100%を目標にしたほうがよいのでは？(D組男子)

A2：防災ラジオを望む人と望まない人がいるので、個人の要望をもとにして配付したい。

Q3：防災ラジオを普及させるためにどんなことをしていますか。(C組男子)

A3：講話を開催した後に希望者に申込書を配布したり、希望者には市役所ですぐに渡せるようにしたりしています。

Q4：北鷹高校以外で避難場所に指定されているところはどこですか？(A組女子)

A4：たくさんあります。交流センターや保健センター、文化会館などです。

Q5：ラジオの普及率を将来的には80%超えを目指しているということですが、具体的な数字を教えてください。(A組女子)

A5：今年発注したラジオの台数では80%超えは不可能なので、来年度以降になります。

## 【3年生「防災・減災対策」研究班から】

「防災・減災対策」を研究テーマに選択した班長さんから、2年生へのメッセージです。

Q. 選択したきっかけは？ A. 高齢者が多い北秋田市で、今ある防災手段の他に自分たちで新しい「防災」ができないかと考えたからです。

Q. 昨年度の研究内容は？ A. スマホによる防災をテーマにし、まず3年生を対象に家族のスマホ所持率や防災アプリに求める情報を聞くアンケートを実施しました。

★2年生に一言！ 研究・調査をする上で、一番大切なのは数字やデータから根拠ある結果を出すことだと思います。予想していた答えと違う答えがでるときもあるかもしれませんが、班員と協力して研究を進めていってください。

